

笠 コ ン フ レ ーム

国土交通省NETIS（新技術情報提供システム）掲載期間終了

矢板笠コンのプレキャスト化!

水路、河川や湖沼などの護岸には、鋼矢板、コンクリート矢板による工法が用いられています。矢板の設置後には、上端部を『笠石』としてコンクリートが現場打ちされています。

このような現場条件は一般的には、矢板工の前側は水辺で、後側の陸地は法面などで狭くなっており、とりわけ、前側の水辺では水位や流速が変動し、かつ強風による波浪を受けるなど、悪条件での、舟などによる型枠の設置や、配筋の作業はかなり厳しいものです。

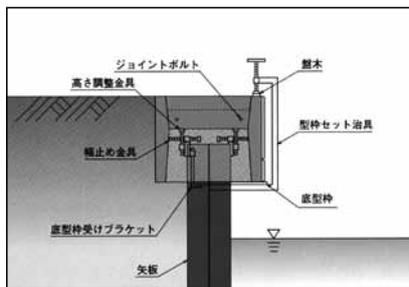
これらの課題を一挙に解決し、更に修景や省資源もできるのが、『笠コンフレーム』です。

特 長

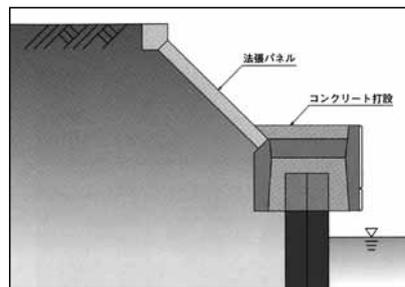
- 1.工期の短縮が可能です。
型枠が不要で、さらに作業の機械化ができます。
- 2.陸地側からすべて施工が可能です。
水位、流速、流量、風速に影響されません。
- 3.景観にも対応できます。
- 4.省資源ができます。型枠の木材などが不要です。
- 5.広幅型・ハット形鋼矢板にも対応できます。



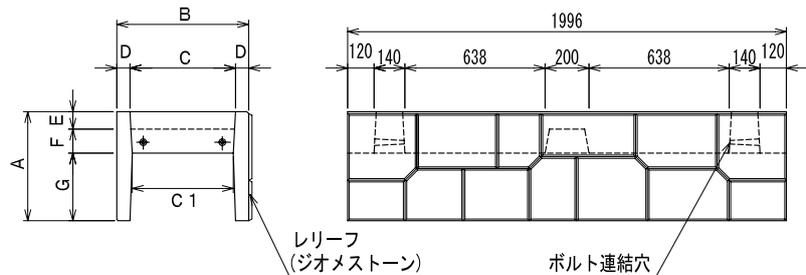
標準施工図



法止使用例



●標準タイプ



サイズ	寸法仕様 (mm)							参考質量 (kg)	中詰めコンクリート量 (m ³ /本)	適用参考例														価格 (円)	
	A	B	C	C1	D	E	F			G	U形鋼矢板										ハット形鋼矢板				
										IA	II	IIA	IIW	III	IIIA	IIIW	IV	IVA	IVW	VL	VIL	10H	25H		
400	500	380	370	60	60	90	250	330	0.28	●															
400	550	430	420	60	60	90	250	340	0.32	●	●														
450	550	430	420	60	60	90	300	370	0.36	●	●														
500	600	480	460	60	80	110	310	430	0.44	●	●	●	●	●									●		
500	700	580	560	60	80	110	310	450	0.53				●	●	●	●								●	
600	700	580	560	60	80	110	410	520	0.65				●	●	●	●								●	
600	800	680	660	60	80	110	410	540	0.76							●		●	●	●	●				

※上記表は、矢板工における施工管理基準(±100mm)に基づく適用参考例です。上記以外の適用についてはお問い合わせ下さい。

※質量は表面模様付きの質量を示しています。

笠コンウォール

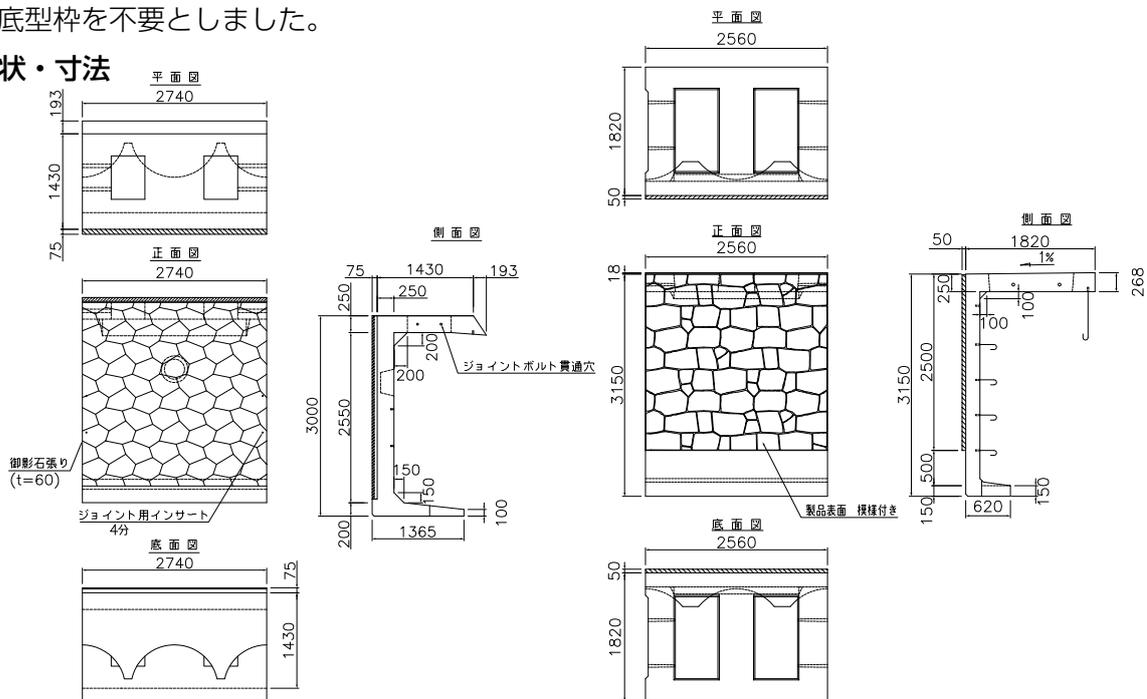
国土交通省NETIS（新技術情報提供システム）掲載期間終了

特長

近年、河川下流域や港湾等の工事には鋼管矢板や大型鋼矢板が多く使用され、矢板およびタイロッド等の腐食防止や景観に配慮した大型コーピング工が施工されています。しかし、潮の干満や波の影響を受ける現場での施工や対策費、潜水夫や鉄筋工・型枠工等の熟練工を必要とし、作業期間も長期を要していました。そこで、これらの課題を一挙に解決するために開発された「笠コンウォール」は、安全且つ施工性に優れ、工期短縮・コスト縮減が図れ、周囲の景観・環境にも配慮できる画期的なプレキャスト製品です。

1. 作業の機械化により、工期の短縮が図れます。
2. 陸側から施工が可能で安全性に優れています。
3. 景観にも配慮できます。
4. 底型枠を不要としました。

■形状・寸法



サイズ(mm)	参考質量(kg)	価格(円)
(H)3,000×(B)1,430×(L)2,740	8,770	別途見積
(H)3,150×(B)1,820×(L)2,580	5,830	

■施工例

受台設置状況



製品布設状況



製品吊り上げ状況



製品布設状況

